

だれでも幸せになれる教えです!!

ひかり

2021年

1月

185号

一
路
平
安

玉風 去
年

2021



お金を活かす方法！

宗教法人 真生会

仏の種を育てよう！

一人が一人、仏縁にお誘いしよう！』

真生会の教えとは！

仏さまの智慧と

仏さまのものの見方を身に付け

自分の運命を変える

在家の法華経教団です。宗旨宗派は問いません。どなたでも安心してお越し下さい。

◇慈悲の世界「真生楽園建設」

ぬくもりと安心のある家庭と社会を作る

◇即身成仏「輝く自分作り」

ありのままに輝く自分自身になる

◇幸福の五ヶ条

- 一、素直な心：（おかげさま）
- 二、誠の心：（まず人さま）
- 三、明るいい心：（きっとよくなる）
- 四、尊ぶ心：（仏性を拝む）
- 五、信じる心：（皆、仏の子）

聖地一斉勤労奉仕

コロナ禍の対応をしながら、十一月二十九日（日）年に一度の聖地総本山真生寺の一斉勤労奉仕が行われ、晴れ渡る秋空のもと、和気あいあいと勤労の汗を流した。



水路清掃をする壮年部



参道階段作りをする青年部



フォークリフトも大活躍



四天王守護神の清掃
岐阜教会・名古屋教会婦人部



会長先生と壮年部の皆さん

勤
労
奉
仕

触
れ
合
い
の
こ
と
と
き
!



ちっちゃな子供たちもママと一緒にお手伝い！



勤労の後の食事は美味しい！



開祖さまのみ教え

開祖 田中偉仁

人生の四つの誕生日

第一は「この世に生まれた誕生日」、第二は「社会人となった日（結婚までの年代）」、人間は何のために生きていのか、自分は何の目的を持って生きていのかをはっきり自覚するための誕生。自覚できた時、勇氣と希望が湧き起こります。第三は「家庭を持ち自立した日（壮年期の年代）」、今日まで自分が生きて来る間に有形無形に多くの方にご迷惑をかけてきた懺悔さんげとお世話になってきた感謝に気付く日。そこには自信に満ちた力強さと活力が湧き起こります。第四は「定年退職し高齢を迎えた日」自分中心の事ばかり考え、思うようにならぬと死んだ方がましだという愚痴の生活から脱却し、今日まで生き抜いてきた体験と善行を子孫に伝えることを自覚する。今世における優等生になる努力こそ、未来に持つていける徳の宝であり、この使命が自覚できた老人は、常に若々しく魅力がある。

（真実に生きる77号より）

ぶし眞教法話

会長 田中庸仁
たなか つねひと



◇お金の活かし方

私達の生活にお金はお金に欠かせませんが、お金には生きたお金と死んだお金があります。生きたお金とは何か、本当のお金の活かし方は何かを考えてみましょう。

年末年始は、商売の支払いやお正月の準備、お年玉などお金の要りようが多く、めまぐるしくお金が動きます。だから、昔からお金のことを「お足」といいます。

お足だから動くことが使命であり、動いた時にこそ力を発揮するのです。足は動かさなければ運動不足になり、役に立たなくなり、人間でも老化は足から始まるといえます。足が弱ると本体の体も弱り、脳もだんだんはたらきが鈍ってきて「認知症」になりやすくなります。

何百万、何千万という銀行預金も使わずに貯めていただけで運動不足で力を失い、足が萎えてお金の本当の力を失ってしまいます。力を失ったお金や財産は死に金となって財産争いの原因になるだけです。

銀行預金の金利が低いから預けても仕方がないと、タンス預金にしても同じことです。日頃から動かしていないお金は、詐欺によって騙し取られ、やはり死に金になります。馴れない投資や株、ギャンブルで大金を失うのも、やはりお金の運動不足で本当に生きたはたらきができていないのです。自分の徳の脚力以上に楽しんで儲けようという欲の結果です。平素から皆の喜ぶことや善行にお金を使うウォーミングアップもしていないのに、自分の脚力を自覚せず、いきなり百メートル走で優勝しようとして転んで怪我をするのと同じです。

◇子を生み出すお金の使い方

お正月に子や孫にお年玉をあげるのは普通ですが、一人前の社会人になって収入を得るようになったら、生活費を入れたりお世話になった両親や祖父母にお年玉をあげられる若者になりました。親や祖父母はびっくりして喜ぶでしょう。そしてまた、親や、祖父母は子や孫に喜んでお年玉をくれますから、

お金が家の中で悦びと一緒にぐるぐる回って充分運動するのです。

だから、決して損はしません。親孝行や家のため、人の喜ぶことに蒔いた種は、必要な時に何倍もの実となり子となって戻ってきます。また、お年玉やお小遣いにお金はお札で、新札でのし袋に入れて渡しましょう。有りがた味が増えて無駄遣いはしません。神仏にお供えしたり供養するお金も、新札でさせて頂きましょう。

◇きれいな心は汚れがすぐわかる

世の中は「悪因悪果、善因善果」因果の法則で動いていますが、法華経は悪果も次なる幸せの善因に変えてしまうから、百パーセント救われる教えなのです。つまり、困った現象の中にも「ありがたい事、良い事」を見つける、良い所探しが法華経の考え方なのです。

先日、ある親子からで最近起こった出来事の受け止め方の添削てんきやくを尋ねられました。クラシック音楽が趣味の息子さんが学生時代の恩師を誘い、十一月十七日にコロナ禍の中、名古屋まで行く、行かないという押し問答があったのです。「コロナ感染者が急増し、不要不急の外出を控えるように報道されているの

でやめた方がいい。ましてや恩師の先生は高齢者なので危険だから…」

「折角チケットが取れたのだし、毎年恒例で先生も楽しみにしておられるから、行ってくる」

「もし先生にうつったらどうするの。あなたが感染して、うちの商売が出来なくなったらどうするの」

「絶対大丈夫。会場も感染防止対策をしているから大丈夫だよ。そして、教えがあるから大丈夫」

「もういい、勝手にしなさい…」とのやり取りがあつたのです。

そうしたら、その晩から胃痙攣いけいれんが始まり、朝になってやっと治まったのですが、寝不足と体調不良のため、母の言う通りキャンセルすることにし、恩師にも伝えたら「私もその方がいいと思う」と了承りようしやうしてもらえたのです。

「それで良かったのですよ。母の意見をよく消化できずに逆らつて怒れたから、胃痙攣いけいれんになったのでしよう。しかし、怒つたらすぐに現象が出たのは、平素から教えを聞いて心がきれいに洗濯されていたから、不徳の染みしみがすぐ出て護られたのですよ。語呂合わせに聞こえるかもしれませんが、これは仏さまが

このコンサートには【胃癒癲^{いけえれん}Ⅱ行けれん】と教えて下さったのでしよう。

本当の徳人は敢^あえて危ない橋を渡るような無茶や無謀なことは初めからしません。無茶な危険を犯すのは本当の勇氣ではなく《匹夫^{ひつぷ}（徳の無い人）の勇であり蛮勇^{ばんゆう}》なのです。そして、今回のコンサートは、あなたの好きなことに對する煩惱であり執着だったのですよ。だから仏さまが、止めて下さったのです。あなたには徳があったのですよ。」

「先生、よくわかりました。いいことに思えても、無理や執着はいけないことが理解出来ました。」

◇教えは心の取り扱い説明書

乾燥した天氣が続くので、真生寺の本堂用と事務所用に加湿器を購入しました。機種によって特徴がありますが、どの機種もタンクに水を入れ、スイッチをオンにすれば稼働^{かどう}する、分かり切った当たり前のことですが、よく見るとタンクの中にフィルターがあったり、見慣れない部品があったので、取り扱い説明書を読むと手入れの仕方や装置の使い方が詳しく書いてあり、《こんな便利な装置なんだ。手入れはこのようにすれば、きれいで長持ちするんだ》という

ことが分かりました。説明書を読まなくても使えますが、読まなければ折角の便利な機能も充分活かせず宝の持ち腐れになってしまいます。

法華経の教えは、誰でも幸せになれる心の取り扱い説明書です。難しい經典を読み、教学を学ばなくても教えの実行は出来ませんが、ちゃんと学べば「一念三千、諸法実相、十如是、因縁果報、四諦の法門、八正道、六波羅蜜、懺悔の法」等々、幸せになるための様々な便利な心の使い方が書いてあるんだ、心にはこんな素晴らしいはたらきや装置があるんだということが分かります。

真生会では総本山、各教会で二ヶ月に一度、法華経勉強会があります。こんな素晴らしい法華経という心の取り扱い書を学ばないのは、人生の大きな損失です。急発進防止や自動運転、ライトの自動切り換え、横滑り防止など、数々の身を守り安全運転するためにフル装備されている高級車をアクセルとブレーキしか使わないで乗っているのと同じです。走ることは出来ませんが、より安全により快適なドライブをすることはできません。

たくさん教えの話聞きましょう！法の教学を学びましょう！法華経は幸せになるための宝庫です。どうぞ、どなたでもご連絡の上、ご参加ください。

釈尊物語

⑥

◆◆群盲、象を評す◆◆

ある王様が、目の見えない人たちを「象」にさわらせ、どのようなものなのか王様に説明させました。目の見えない人が生まれて初めて象の体にさわり「なるほど、これが象というものか」と体験し、王様に説明をします。

牙を触った者は「象は、堅くてツルツルして、先が尖って曲がった丸い棒のようなものです」

足を触った者は「いえいえ、太い柱のようなものです」

胴体を触った者は「いや、大きな壁の

ようなものです」

耳を触った者は「違います、薄くて平べったい、大きな団扇のようなものです」

鼻を触った者は「何を言うか、象は柔らかくて動く丸い管のようなものです」

尻尾を触った者は「細くて長くて先っぽに毛の付いた、はたきのようなものです」と答えました。

それぞれが触れた部分だけが「象」というものなのだと思ひ込んで、ケンカが始まったという話です。

これは目が見えない人の笑い話ではなく、肉体的に目が見えていても、人間は自分が体験したほんの一部分だけの情報や知識こそが正しいと信じ込んで、誤解と錯覚をして生きているのです。

牙、足、胴体、耳、鼻、尻尾など一つ一つは象の一部分であり嘘うそではありませんが、これこそが象だという全体をとらえた真実ではありません。仏法も同じことで、教えの一部だけを知り、わかったと錯覚し、学びや実行がおろそかになつてはいけません。

反対に、教えの全体はなかなか掴つかめな
いとしても、尊い教えの一つでも二つでも一生懸命実行し修行に励めば、教えの全体・真髓しんずいを掴むことができるのです。

また、お釈迦さまは、**違いを「認める」**
ことの大切さを教えられたのです。人には各々違いがあることを知るだけではないけません。その違いを尊重し、認め合つてこそ、毎日が極めて楽しい「極楽世界」

になるのです。

すべての苦悩は「無明むみやう」から生じるのです。物事の一部だけを見てすべてだと勘違かんちがいし真実が見えないこと、ありのままの姿を知らないことこそが、苦しみの元であり、愚か者なのだということなのです。

仏教は、人生という真まつ暗闇くらやみの部屋の中で手探りでさがし物をしているのではなく、灯あかりを点せば一目で部屋中が見られるように、仏の智慧の光で無明の闇、無知を破ることを教えているのです。

仏教は、誰かの力に頼って安心し、幸せになろうという消極的受け身の教えではなく、正しい道を学び、心を正しく育て自分の力で苦を乗り越えていくという積極的能動的な教えなのです。

今月の運勢（2月）

（2021年2月4日～3月4日）

一 白水星

困難が重なり、大きな災厄もやって来る。くじけず真正面から受け止めて、誠実に行動すれば必ず切り抜けられる。耐え抜けば人間的輝きと深みが増す。先祖供養の徳積みで思っていることが通る。

二 黒土星

人との協調と調和を第一にすること。大地のような包容力と従順な素直さがポイント。先頭に立たず、尊敬できる人の後に続き、敬い立てれば万事うまく行く。怒りは禁物。

三 碧木星

肝を冷やすような突然

の出来事には誰でも驚

き恐れおののくが、何が起きようと、自分が失わず泰然としていれば、後には福が来る。日ごろから一心に神仏を祈る人は突然の変化にも動揺しない。

四 緑木星

高運期を迎えているが大きな事を考えず、自然の流れに従えば利がもたらされる。但し、相手を選び、信頼できる人、先輩に従って進むこと。あくまでも謙虚な心で従うこと。

五 黄土星

世界の中心に居り、周困から注目されている。反面、すべてがよ

く見えるので、行動よりもこれからの方針を熟慮しよう。ゆったり

と腰を落ち着けてエネルギーを蓄えること。

六 白金星

願うことは大いに通る。動機が正しく、一貫性と持続性があれば目的は達成できる。余計なことや自分の都合は考えず、天意、真理に従って行動すれば、結果に間違いはない。

七 赤金星

人との出会いを楽しむ時。何事にも感動し、心の底から楽しみ、大きな声で笑えば運気は上がる。但し、道に外れた喜び、邪な喜び、

邪悪な喜びには、以外

な落とし穴があるから要注意。

八 白土星

大いなる停止の時。私欲をとどめ、無心に徹すること。何が起きても山の如くどっしり構え、周囲の声に一々心を平穩に保ち、流れに任せればいい。

九 紫火星

単独行動は厳に慎み、孤独や孤立は避けること。良きリーダーに付き、いっしょにやる仲間がいれば何事もうまく行く。家庭を大切にすることも忘れない。転職はしないこと。

「まごころ誌代」御礼

土川順寛	水田祐記子	堀部高佑	東島杏実	奥田佳代
土川恭代	田中庸仁	亀井善二	東島佑樹	林田早紀子
土川康二	田中佑季子	多田佳央	東島杏衣	三村南央斗
土川廣美	田中啓予	宮田雄貴	小林佑実子	細谷早予子
横山知津子	田中宏明	宮田裕加里	今井純司	出田溪
半澤照子	亀井善広	後藤清美	松下栄暉	永田雅子
安田初子	亀井由実子	松尾定洋	今園雄太	荒木敬依子
伊東 晃	足立和美	渡邊浩志	某女	平口富子
佐藤百々枝	高橋身衣	澤君美	滝山恵依子	堀田純子
佐藤光洋	早野起世	加納悠貴	笹原正子	今園達也
田中新治	早野雅大	滝本光夫	小村友子	村上視佑記
横井明彦	早野桂子	桑原聖子	谷口祐晟	樋口恵美子
横井志奈子	豊田直正	京川春男	谷口祐子	樋口容子
大橋末子	豊田真悠子	東森敦己	坪井佑介	長尾教子
横山都久子	堀部英敏	平田みや子	某	笹原トミ子
大橋千枝子	堀部祐美衣	四日市某	坂本育身	笹原正子

★皆様の『まごころ次第』献金のご協力によって継続発刊しています。
紙面をもつて感謝申し上げます。(敬称略・順不同)

《入会のご案内》

真生会は、個人の心の勉強と実践を目的とする個人会員制です。各家の宗旨宗派はご自由です。詳しくは総本山真生寺、各教会にお尋ね下さい。

☆会員会費 500円/月

発行所 宗教法人 真生会 総本山真生寺
〒501-1105 岐阜市彦坂178番地
TEL 058(235)7304

発行人 会長 田中庸仁

振込先 三菱UFJ銀行 岐阜支店
普通口座 3715509

名義 宗教法人真生会 代表役員 田中庸仁

しあわせ眼鏡

幸せの掴み方

両手にある幸せの片方を放
せば、新しい幸せが掴める
大人は、両手に持ったまま
次を掴もつとする
赤ちゃんは、
次のおもちやを得るために
勇敢に手放す

お気軽にご連絡ご相談下さい

- | | | |
|----------|-----------|--|
| 【総本山真生寺】 | 〒501-1105 | 岐阜市彦坂 178 番地
TEL 058 - 235 - 7304 |
| 【岐阜教会】 | 〒500-8882 | 岐阜市西野町 3 - 19
TEL 058 - 262 - 9615 |
| 【大阪教会】 | 〒532-0028 | 大阪市淀川区十三元今里 3-4-10
TEL 06 - 6308 - 5637 |
| 【名古屋教会】 | 〒454-0808 | 名古屋市市中川区九重町 3 - 10
TEL 052 - 351 - 3904 |

上記の教会にお申込み下さい。必要な冊数を毎月お送り
します。詳しくはお尋ねください。